

GATI SHAKTI VISHWAVIDYALAYA (GSV)との鉄道に関するウェビナーの開催

2025年4月1日

■ GSVについて

GSVは、インド鉄道省傘下の大学であったインド国立鉄道交通大学（NRTI）をもとに、2022年中央大学として改組・設立された大学である。改組・設立後の研究・教育内容は、鉄道関係の人材育成やインド国鉄職員の訓練に加えて、陸・海・空すべての運輸部門を対象としており、常勤教員40名、客員教員50名、学生数840名である。

■ ウェビナー開催の経緯

JTTRIは、2019年にGSVの前身であるNRTIと期間5年のMOUを締結していた。2024年初頭に、MOUの期限が切れること、NRTIがGSVとして改組されたことを契機に、GSVからMOUを再締結したいという提案があり、2024年8月6日にインド・デリーにてMOU署名式を実施した。

このMOUに基づく活動の第一弾として、両機関の鉄道に関する研究活動を紹介しあうウェビナーを2025年4月1日に開催することとなった。

■ ウェビナーの概要

開催日時：2025年4月1日 日本時間 13:00～16:00
参加者数：両機関から、会場・オンライン合わせて約60名

1. 開会挨拶

- ・ GSVのチョードリー副学長から開会挨拶。GSVは運輸部門すべてを対象とする大学であり、運輸部門の人材育成のため、JTTRIとの協力関係に期待している旨の発言。
- ・ 藤崎主席研究員・研究統括より、JTTRIの概要説明の中で、最近の研究テーマ一覧・発表可能テーマを紹介。
- ・ 富田主任研究員・AIRO次長よりネットワーキングやイベントをはじめとするAIROの活動を紹介。

2. 研究活動紹介

鉄道と都市開発に関する研究活動紹介

- ・ GSV：インド国鉄の鉄道安全の取り組み（タッカー学術部長）
- ・ JTTRI：日本のTOD事例（武藤主任研究員）

Indian Railway context @ Decarbonization

- Indian Railways (IR) produces
 - about 11.5 gCO₂e per passenger-km travelled (IEA & UIC)
 - about 9.5 gCO₂e per ton-km of freight transported
- India's National Rail Plan (NRP) aims
 - to increase the share of rail in freight transport to 45% by 2030, up from the current 27% → higher GHG emissions
- Indian Railways (IR) aims
 - a net-zero carbon emitter by 2030
 - primarily by transitioning to renewable energy sources
 - increasing electrification of its network, with a target of 30 GW of renewable capacity by 2029-30.

インド国鉄のCO₂排出量と将来削減目標値（チンタラ准教授発表資料）

鉄道の脱炭素に関する研究

- ・ JTTRI：運輸部門のシナリオ分析（谷口研究員）、交通分野の水素活用（小御門研究員）
- ・ GSV：インド国鉄の脱炭素化の取り組み（チンタラ准教授）

3. 質疑応答

GSVからは、提案する水素ステーションの整備コストと管理体制についての質問や、日本の人口減少社会における公共交通のあり方及び自動車産業への影響についての質問が、JTTRIからは、インド国鉄が計画している水素列車の導入目標の達成方法に関する質問がなされ、活発な議論が行われた。

4. 総括

チョードリー副学長から、このようなウェビナーを今後も継続して開催したいという提案とともに、学生のインターシップや人材交流への希望にも触れられた。藤崎主席研究員からは、まずはウェビナーを継続的に開催していくことで、双方の研究活動に対する理解をより深め、それを踏まえて具体的な共同活動を検討していくことを提案した。

このウェビナーの成果として、JTTRIとGSVは、協力関係強化に向け、ウェビナーを継続することになった。



GSV（左から3番目：タッカー学術部長、5番目：チンタラ准教授、6番目：チョードリー副学長）



JTTRI（左から吉田主席研究員、小御門研究員、藤崎主席研究員、武藤主任研究員、谷口研究員、神戸主任研究員）